

日本海水学会 60周年記念シンポジウム・見学会
海水総合利用技術構築を展望して
ーリチウム等を例とした高度分離技術の展開ー

日本海水学会 海水資源・環境研究会

代表 柘植 秀樹

近年、中国を始めとする新興国の急激な経済成長を背景に、各国で資源の安定確保に対する懸念が高まった。それはわが国でも同様であり、政府や商社を始めとする民間企業が資源の安定確保に向けて動きを速めている。一方、わが国では、1960年代～1980年代にかけて海水に着目した資源回収の開発に取り組み、淡水化、製塩などの産業を生み出すとともに、海水中のウラン、リチウムなどの稀少元素の回収にも取り組み、パイロットプラントが稼働するまでに研究が進んだ。こうした海水資源回収技術は、世界でも類を見ない有数な技術として確立されたが、その根幹は様々な分離技術であり、その集合体である。

本シンポジウムでは、電気自動車の普及などへの期待から、リチウム資源の確保に各国が南米塩湖に注目する中で、わが国固有のイオン交換膜法製塩技術の活用を提案した事例を紹介するとともに、炭酸リチウムなどの難溶性塩類の反応晶析に活用可能な高効率反応晶析装置を紹介する。また、ウラン回収技術から派生した吸着分離技術の多様化、高機能化を紹介するとともに、吸着分離、淡水化、製塩技術を活用した福島第一原発事故における汚染水処理への適用についても紹介し、今後あるべき海水総合利用技術についてもその絵姿を提案する。

- 主催：日本海水学会 海水資源・環境研究会
 共催：(社)日本粉体工業技術協会 晶析分科会、(公財)ソルト・サイエンス研究財団
 協賛：日本海水学会 若手会、(社)化学工学会、日本イオン交換学会、分離技術会、日本無機薬品協会
 開催日：平成23年8月24日(水) 12:00～17:00 (施設見学会含む)
 会場：小田原市民会館 (神奈川県小田原市本町1-5-12)
 講演：12:00～15:20にて、以下の5つの講演を予定しております

代表挨拶 (12:00～12:10)		
講演1	世界におけるリチウム資源開発の動向 (12:10～12:30)	三菱商事(株) 環境・水事業本部 自動車関連事業ユニット 次長 澤田 明
講演2	南米塩湖かん水からのリチウム回収技術開発 (12:30～13:10)	(財)塩事業センター 海水総合研究所 主任研究員 淵脇 哲司
講演3	難溶性塩類製造への新たな反応晶析装置の適用 (13:10～13:50)	日本化学工業(株) 技術推進本部長 山崎 康夫
コーヒープレーク (13:50～14:10)		
講演4	吸着分離技術の多様化、高機能化とその活用例 (14:10～14:50)	(株)環境浄化研究所 代表取締役社長 須郷 高信
講演5	私が考える海水総合利用技術とは (14:50～15:10)	(財)塩事業センター 海水総合研究所 所長 長谷川 正巳

施設見学会：15:30～17:00にて、(財)塩事業センター 海水総合研究所の施設見学会を予定しております (貸切バスにて往復)

技術交流会：施設見学会終了後、小田原市民会館にて技術交流会を開催いたします (17:00～18:00を予定)

参加費：一般会員 3,000円、学生会員 1,000円、非会員 5,000円 (技術交流会・施設見学会参加費を含みます)

共催、協賛団体の会員様は上記会員料金にて承ります

定員：100名(定員になり次第締め切らせて頂きます)

申込先：〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂4-13-20

(財)塩事業センター 海水総合研究所 (担当：鴨志田)

Tel: 0465-47-3161 Fax: 0465-48-6242

E-mail: shigen@swsj.org

アクセス：JR小田原駅東口から徒歩約10分 (中央通りを南下)

